横田血液プログラム、空軍監査チームを招く

Yokota blood program invites AF inspection team

February 3, 2020

By Staff Sgt. Taylor A. Workman
374th Airlift Wing Public Affairs

第３７４医療群の輸血サービス部は１月２４日、血液バンクプログラムの評価を得るため、空軍レベルの監査チームを招いた。アメリカ食品薬品局と米国病理学部は、定期的にプログラムのコンプライアンスの徹底と品質保証の監査を行っているが、今年は第３７４医療支援中隊臨床研究小隊長ジェニファー・マウザー大尉が空軍の監査チームからの追加の審査を求めた。

マウザー大尉は、横田のラボに保管されている血液は命を救うためのものであり、最大限に基準を守ることが重要だと話す。輸血サービス部の空兵は、コンプライアンスの確保とプロセスの合理化を図り、２月中旬に実施される米国病理学部の監査に向けて訓練を積むため、監査官と密に連携を取っている。

「昨年だけで、計３８回の輸血を実施した。出産中の大量出血や、がん患者が特殊治療に移るために最もよく使用される」とマウザー大尉は述べた。

すでにラボは、保管温度の測定値の収集を合理化する新しいソフトを開発し、技術者向けの操作マニュアルを更新して記録収集の効率を向上させた。

マウザー大尉は、輸血サービスチームは引き続きアメリカ食品薬品局と米国病理学部で定める条件を満たし、安全な血液製剤を横田の患者に届けていくと話した。